文教福祉委員会　送付７－３７
「学びの多様化」を推進する教育拠点の設置を求める陳情

受付年月日　　令和７年 11 月 14 日

陳 情 者　　提出者　　１名

令和 7 年 11 月 13 日

千代田区議会議長　秋谷こうき様

[redacted]

陳情書

「学びの多様化」を推進する教育拠点の設置を求める陳情

＜要旨＞

近年、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しております。小中学生の不登校児童生徒数は全国で 35 万人を超え、過去最多となっています。

文部科学省はこうした状況を受け「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLO プラン）」を策定しました。このプランでは、子どもが学びたい時に安心して学べる「多様な学びの場や居場所」を全国の自治体に整備するよう求めています。東京都もこれに呼応し、区市町村や学校・民間支援機関と連携した学びの場・居場所づくりを推進しています。

こうした流れを踏まえ、私たち保護者は、千代田区においても、子どもたち一人ひとりの学びと心に寄り添う「学びの多様化」を推進する教育拠点の設置を検討していただきたく、本陳情を提出いたします。

＜理由＞

1．すべての子どもの学びを支えるための多様な環境整備

千代田区内でも、不登校や学校生活への不安を抱える子どもが年々増加しています。私たち保護者の実感としても、学校に行けない日が続いたり、学びのペースが合わず悩む家庭が少なくありません。背景には、家庭環境や発達特性、人間関係や心身の不調など、さまざまな要因があり、一律の学校制度だけでは十分に対応できない状況があります。すべての子どもが安心して学び、社会とのつながりを保ちながら成長していくためには、在籍校以外にも選択できる多様な学びの場が必要です。

文部科学省の「COCOLO プラン」は、こうした課題に応えるため、不登校児童生徒の学びを保障し

収受
千区議会第 107 号
7.11.14
千代田区議会事務局

一人ひとりの個性や興味を尊重した学びを通じて社会的自立を支援することを目的としています。東京都もこれに呼応し、不登校特例校やオンライン学習拠点の整備や各種調査などを行い「学びの多様化」を推進しています。

港区では令和７年度４月に「御成門学園御成門中学校 分教室 学びの多様化学校 Minato School」を開設しました。少人数指導や個別学習により、苦手教科の克服や興味を広げるプログラム（プログラミング・体験型理科学習など）を行い、安心して学べる環境を整えています。また、世田谷区では令和８年度に、公立の「学びの多様化学校（不登校特例校）北沢学園中学校」の開校が予定されています。年間授業時間の緩和や校庭・体育館を備えた本校型（独立校型）の施設構想が示されています。

こうした先行事例を踏まえ、千代田区においても、子どもたちが自分に合ったペースで安心して学べる「多様な学びの拠点」を整備することを検討いただきたいと思います。

２．千代田区の特性を生かした「都心型教育モデル」の構築

千代田区は、大学や専門学校、文化施設や官公庁、企業など知的資源が豊かに集まる地域です。一方で、児童数の増加による教室不足もあり、多様な教育ニーズに応えられていない側面が見受けられます。子どもの個性や才能を伸ばすプログラムや国際対応など、千代田区ならではの教育が求められています。都心の特性を生かし、例えば次のような教育モデルを構想できると考えます。

・学力・発達・心の両面に対応する個別支援プログラム
・デジタル・アート・探究など、多様な才能を伸ばすカリキュラム
・帰国子女や外国籍児童への国際的な教育支援体制

子どもや保護者、地域や大学、企業が協働し、「学び」「支援」「居場所」を一体的に整える都心型の学び拠点として位置づけることで、不登校支援にとどまらず、すべての子どもが自分らしく学び、成長できる環境をつくることができます。これは、千代田区が掲げる教育ビジョン「子どもの健やかな育ちをまち全体で支援し、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばす」という理念にも合致するものと思われます。

＜結び＞

千代田区においても「学びの多様化」を推進する拠点をつくり、都と連携した「都心型モデル」を構築することを強く要望いたします。幸い千代田区には旧永田町小学校のような未使用の既存校舎があります。そういう校舎を改修して利用するなど新築であらたに作るより、時間も工費も環境にも優しい方法もあります。子どもたちが自分らしく学び、自ら未来を切り拓くことができるようになる環境を、区と地域が協力して育んでいけることを願います。